

新国立契約、見切り発車

JSC

資材発注 大成建設と33億円

二千億円を超える巨額な工事費が問題となっていて、二〇二〇年東京五輪・パラリンピック大会の会場となる新国立競技場（東京都新宿区）の建設で、事業主体の日本スポーツ振興センター（JSC）は九日、施工業者と最初の契約

を結んだ。大手セネコンの大成建設に対し、スタンド部分の一部資材を発注し、契約額は三十二億九千四百万円。有識者会議で工費了承後も批判の声が上がる中、十日から資材の調達を始め、十月に着工する。

関連⑥②④面

JSCが今回発注したのは、スタンド部分の地下の柱などに使う鉄骨材や、免震装置のプレートなど。計画では、基礎工事を十月から始め、スタンド、屋根、外装・内装、フィールドの順で工事に着手。ラグビーワールドカップ（W杯）開

新国立競技場のスケジュール

2015年7月	工事契約開始
10月	着工
2019年5月	完成
9～10月	ラグビーW杯
2020年7～9月	東京五輪・パラリンピック



日本スポーツ振興センター提供

催前の一九年五月末の完成を目指す。JSCは七日の有識者会議で、工費二千五百二十億

円とする案が了承されたことを受け、契約を開始。今後、スタンド部分（千五百七十億円）は大成建設、屋根部分（九百五十億円）は竹中工務店とそれぞれ順次、契約する。

いずれも随意契約で、現行の消費税率8%が適用される年内に全ての契約を結ぶ方針。

新競技場の建設をめくつては、英国在住の女性建築家ザハ・ハジド氏のデザインが採用されたが、工費は当初予算の千三百億円を大幅に上回る三千億円に達

することが判明。その後、規模縮小で昨年五月の基本設計公表時には千六百二十五億円まで減らし、この額で大成建設と竹中工務店が施工業者に内定した。

しかし、この二社が今春出した見積もりは三千億円を超え、JSCは開閉式屋根の設置を先送りすることにした。

平和の俳句

戦後70年

慰霊碑と鳩の水あび夏の空

草鹿

崇(67)

東京都中野区

「いとつせいこう」戦後に何が残ったかを端的にあらわす一句。人の祈りのこもった碑、幸せな動物と美しい自然。その調和は何によってあがなわれているか。

2015.7.10

反骨の エキスパ

休みはなくなる。批判もきつい。収入は減る。当選のそれでも日本を救う気概